

臨床セミナー申し込みについて

- 定員数：80名(先着順)
- 対象者：臨床心理士・公認心理師・医師などの専門家、大学院生、研修生
事例に関する情報の守秘を厳守できる方
- 受講料：30,000円(前半15,000万円・後半20,000万円)

■ お申し込み方法

下記URLから申し込みフォームにて必要事項をご記入ください。

<https://forms.gle/d7jMKbN9eryQKgPT6>



※申し込み内容を確認の上、改めて振込口座と参加費をご案内いたします。
rinsemi@sacp.jpからのメールを受信できるようにしておいてください。

申し込み締切：2024年10月31日(木) ※先着順なのでお早めにお申し込みください

サポチル会員 募集中！

現在(2023年5月末)、**ボランティア会員**9名、**専門会員**173名が、サポチルの研修プログラムへの参加をはじめ、研修会の企画運営、広報事業などに携わっています。サポチルの活動への積極的なご参加をお待ちしています。申し込み方法は、Webサイト[<http://sacp.jp>]をご覧ください。

また寄付により、子どもの心理療法の料金を支援していただく**賛助会員**も募集中です。2023年9月末現在で89名の寄付者の方にご支援をいただいています。寄付はWebサイトからのクレジットカード決済、もしくは郵便振替(一口5千円より)をお願いします。

- Webサイト[<http://sacp.jp>]「サポートのお願い」のページをご覧ください。
- 郵便振替 【口座番号:00990-0-192194 NPO法人子どもの心理療法支援会寄付金】

多くの方のご寄付により、経済的理由で心理療法を受けられないお子さんに心理療法を提供することが可能となっております。ご支援、ご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

みんなの協力で、子どもたちが心のケアを受けられる社会へ。



認定NPO法人 子どもの心理療法支援会 事務局
e-mail:info@sacp.jp URL:<http://sacp.jp>
〒604-8187 京都市中京区東洞院通御池下ル笹屋町444初音館302
FAX: 075-600-3238

2023-2024年度 京都精神分析・臨床セミナー 運営スタッフ

臨床セミナー 林 秀樹
運営スタッフ 大原 咲子 堀内 瞳
村田 りか 松崎 佑亮
山本 梓 島田 友紀

理事 吉岡 彩子
井上 祐 (臨床セミナー担当)
竹田 駿介 (臨床セミナー担当)
脇谷 順子 小笠原 貴文
西村 理晃 大野 通久
藤森 旭人 吉沢 伸一
小島 香織 仁木 一栄

理事長 平井 正三
副理事長 津田 真知子
顧問 鵜飼 奈津子 飛谷 渉
監事 鈴木 誠



サポチル 認定NPO法人 子どもの心理療法支援会 主催

2024-2025年度

京都精神分析・臨床セミナー

ごあいさつ

心理臨床や精神科臨床の業務は多岐にわたります。それは、心理療法だけにとどまらないのはもちろん、ときにこころのケアの何でも屋のような振る舞いを求められ、心理支援や精神科支援の専門家として何をなすべきかを考えながら臨床実践を行っている皆様も多いかもしれません。こうした中では指針がわからなくなったり、起きていることの意味がつかめなくなったりして摩耗しがちです。今年度のセミナーは精神分析という視点から、日々の臨床実践をより有意義にしていくための理論的根拠やその応用方法について考える指針を提供できればと思います。

今年度から、年間6回のセミナーを基礎的な内容に軸をおいた「ベーシック」、より専門的な内容を盛り込んだ「アドバンスド」という、2つのセミナーに分割した形で開催することとしました。精神分析の初心者の方から、ベテランの方までそれぞれの形でセミナーを活用していただけるようになっていきます。勿論、通年でご参加していただくことで、基礎からより専門的な内容までカバーすることもできます。

本セミナーが皆様が専門家としてより成長されていくことの一助となりますことを願います。

認定NPO法人子どもの心理療法支援会 理事長 平井正三

今年度のテーマは、

「精神分析的見立てと対応について —セラピーに捉われないアセスメント・コンサルテーション—」

ベーシック		オンラインのみ				
	月日	講師	テーマ			
第1回	2024年11/23(土)	鵜飼 奈津子 先生	サイコセラピーとコンサルテーションの基礎としての乳児観察			Zoom開催のみ
第2回	2025年1/26(日)	平井 正三 先生	子どもと家族のアセスメントとコンサルテーション			
第3回	2025年2/23(日)	鈴木 誠 先生	精神分析の扉を開くワークディスカッション—体験・観察・記憶・言語化・記述—			
アドバンスド		現地対面・オンラインのハイブリッド形式		現地対面	オンライン	
第1回	2025年3/23(日)	若佐 美奈子 先生	令和の臨床に役立つ精神分析的アセスメントとアプローチ—成人のクライアントとともに歩む—	ハートピア 京都	Zoom	
第2回	2025年5/25(日)	飛谷 渉 先生	被虐待トラウマ臨床と施設のコンサルテーション: プロト・メンタル・モデルの有用性について	調整中	Zoom	
第3回	2025年7/27(日)	橋本 貴裕 先生	個人精神療法以外の臨床実践を精神分析的視点から検討する	調整中	Zoom	

※オンライン参加と現地対面参加で、ポイントの扱いが異なる場合があります。

参加費

臨床セミナー(全6回受講) 30,000円(※振込)
ベーシックのみ:15,000円 アドバンスドのみ:20,000円
単回受講者:ベーシック 6,000円 アドバンスド 8,000円

研修ポイント

今年度は前半・後半を独立したセミナーとして開講します。これに伴い研修ポイントの適用は以下のように変わります。

- ・ベーシックを受講:2ポイント
- ・アドバンスドを受講:2ポイント
- ・全回受講(ベーシック+アドバンスド):4ポイント

※単回受講の方は研修受講証明書の対象とはなりません。※また、ご参加の形態によって、ポイントの扱いが異なる場合があります。ご注意ください。

キャンセル期日

ベーシック・アドバンスドそれぞれセミナー初回の1週間前まで

- ・それまでのキャンセルにつきましては全額を返金致します。
- ・参加者都合の返金については、振込手数料はご負担願います。
- ・それ以降につきましては返金には応じかねますので、ご容赦ください。
- ・単回受講の場合、セミナー当日の3日前までがキャンセルの期日となります。

時間

各回 13:00-17:30
●前半2時間【講義】 ●後半2時間半【事例検討】

Zoom

※ベーシック(第1回~第3回)はオンラインのみ。
※アドバンスド(第1回~第3回)は現地対面・オンライン両方でのハイブリッド開催を予定しています。

ハートピア京都



丸太町駅5番出口すぐ

●ベーシック オンラインのみ

第1回 2024年11月23日(土)	サイコセラピーとコンサルテーションの 基礎としての乳児観察	鶴飼 奈津子 先生
乳児観察は、1940年代に英国で子どもの精神分析的心理療法の訓練の基礎として始まりましたが、現在では、成人の精神分析的 心理療法や精神分析、また、芸術療法系の訓練の基礎とされているほか、精神科医や小児科医、看護師、保健師、教師やソーシャルワ ーカーなどの卒後訓練としても重視されています。本講義では、その訓練における意義について、映像も交えながら解説します。また、英 国やヨーロッパでは、乳児観察の応用として治療的観察が広く実践されているほか、超音波による胎児期からの観察事例研究をはじめ とする調査・研究としての発展も見られます。このように、訓練最初期の乳児観察の体験は、心理療法を実践していく上でのセラピスト のあり方の要になり、かつ幅広い実践領域での応用の要にもなるものといえるでしょう。本講義を通じて、乳児観察を通じて体験され る豊かな世界をご紹介しますと思います。		
参考文献	「乳児観察と調査・研究」(創元社) 「胎児から子どもへ」(金剛出版)	
ご所属	大阪経済大学人間科学研究科・大学院人間科学研究科	

第2回 2025年1月26日(日)	子どもと家族のアセスメントとコンサルテーション	平井 正三 先生
子どもと家族の心理臨床・精神科臨床のニーズはますます高くなっています。しかし、家族の形態は多様化し、養育機能や家族機能が 低下した機能不全家族や別居・離婚家族も増えてきています。また象徴的な遊びで自己表現できる子どもも少なくなり、遊べない子 どもが増えていきます。こうしたなか、従来の「親子並行面接」や「子どもとの個人心理療法」のみのアプローチではこのように多様化した 子どもと家族のニーズには十分にこたえられなくなっています。このセミナーでは、精神分析的観察を基盤にして、それぞれの子どもと 家族のニーズに応じて柔軟に面接形態を変えていくアセスメントとコンサルテーションについて話します。		
参考文献	臨床心理士三団体子育て支援合同委員会編『臨床心理士による心のケアと子育て支援』(福村書店)平井正三(2024)第13章「子どもと家族 の心理相談」 ラスティン&カグリアータ『こどもの心のアセスメント』(岩崎学術出版社)	
ご所属	御池心理療法センター／サポチル	

第3回 2025年2月23日(日)	精神分析の扉を開くワークディスカッション —体験・観察・記憶・言語化・記述—	鈴木 誠 先生
ワークディスカッションは、対人援助職の対人スキルのトレーニングである一方で、心理療法家が臨床トレーニングに入る前に経験す るグループワークでもあります。このプロセスには、精神分析のエッセンスが豊富に含まれているからです。事例を発表する実践家は、 職場での体験を観察して、記憶して、言葉にして、それを生き生きと記述してレポートを作成します。複雑な日常の直接体験を記憶の中 から引っ張り出して、綿から糸を然り生地を編むように、紡ぎ出された言葉を「他者に伝わる」文章へと編み込んで事例が作られるので す。一定の設定で運営されるグループでこの事例を話し合うプロセスでは、発表者やメンバーは「事例状況はどんな世界で、何が生じて いるのか?」を自由連想的に探索して新たな理解に辿り着きます。こうして精神分析臨床への道が開けるのだと思います。		
参考文献	「ワーク・ディスカッション——心理療法の届かぬ過酷な現場で生き残る方法とその実践」(鈴木誠・鶴飼奈津子 監訳 岩崎学術出版社) 「がん患者の語りを聴くということ——病棟での心理療法の実践から」(平井正三・鈴木誠 監訳 誠信書房) 「悲しみを言葉に——終末期の子どもと家族のこころのケア」(鈴木誠ほか訳・鶴飼奈津子 監訳 誠信書房)	
ご所属	くわな心理相談室	

■研修ポイントについて

- 当セミナーは日本臨床心理士資格認定協会の「短期型ワークショップ(2ポイント)」して承認されています。
ベーシックもしくはアドバンスド出席者の方は2回以上出席の方に「研修証明書」をお渡しいたします。
- 1回のみ受講や、講義パートまたは事例パートのみの参加などで時間数が5時間に満たない場合、研修ポイン
トの対象となりません。
- オンライン参加の方も2ポイントとなりますが、オンライン参加としての研修証明書を発行する予定です。

●アドバンスド 現地対面・オンラインのハイブリッド形式

第1回 2025年3月23日(日)	令和の臨床に役立つ精神分析的アセスメントとアプローチ —成人のクライアントとともに歩む—	若佐 美奈子 先生
現代、臨床心理の援助場面に現れる成人の方の中には、自我が弱く葛藤を抱えられない方だけでなく、援助を求めているというご自 身のニーズすら明確でない方もおられるように見受けられます。また、日々の生活や子育て、介護で忙しく、頻繁に面接に来られない方 もおられます。そのような方々を理解し、援助するのに、精神分析の知識や技法は不要でしょうか。古典的な精神分析の枠組みや技法 をそのまま応用することはできませんが、アセスメントとセッティングに工夫をすること、設定や目標に関する話し合いをすることで、無 意識領域も想定した援助が可能になることがあります。むしろ意識にはたらきかけて行き詰まったケースを展開させるきっかけに、精神 分析の知識が役に立つかもしれません。事例を用いて実践的に学んでみませんか。		
参考文献	『事例で学ぶアセスメントとマネジメント—こころを考える臨床実践』 藤山直樹・中村留貴子他著 岩崎学術出版社	
ご所属	神戸女学院大学／西天満心理療法オフィス	

第2回 2025年5月25日(日)	被虐待トラウマ臨床と施設のコンサルテーション： プロト・メンタル・モデルの有用性について	飛谷 渉 先生
被虐待体験は性的なものでも情緒的なものでも、それが心の基盤の発達を阻害し破壊することでは共通しています。トラウマは、想 像できる枠組みを超えた体験です。それはいわば心の皮膚に慢性的な火傷を形成します。そうしたダメージを受けた子どもたちと向き 合う臨床家や施設職員は子どもたちの心がどのように現れてくるのかを知っておく必要があります。本講義では、人の心の基盤が生物・ 心理・社会という三つの領域から成り立っているという観点(ビオンによる心のプロト・メンタル・モデル)をもとに、被虐待トラウマがど のように身体に、個人の心に、そして集団や社会性へと表れてくるのかを理解し、その治療や支援のあり方について考えます。		
参考文献	「児童養護施設の子どもへの精神分析的心理療法」平井正三、西村理晃編集 誠信書房 「エディプス・マターズ——現代クライン派臨床理論から考える心のインフラ」飛谷渉,思想2021年8月号1168:95-117,岩波書店	
ご所属	大阪教育大学保健センター	

第3回 2025年7月27日(日)	個人精神療法以外の臨床実践を 精神分析的視点から検討する	橋本 貴裕 先生
これまで、心理職の専門性を高めるためには、個人心理療法を行い、そのスーパービジョンを受けていくことだったかもしれない。し かし、心理職が個人心理療法を行う機会は低下し、多岐にわたる仕事を行うようになっていく。こういった状況で専門職として、どのよ うにすれば技能を身につけていくことができるだろうか?		
精神分析理論を土台とするワークディスカッションは、心理療法以外の日々の臨床においても、個人の情緒的体験と集団力動、ディ スカッションの場で起こること、といった多面的視点に焦点を当てるが、そこに精神分析の知見を活かしている。このプログラムは、心 理療法以外の臨床においても、専門性を高めたい臨床家の一つの選択肢となるだろう。あるいは普段行っている臨床の意味を再発見 し、よりやり甲斐をもって臨めるかもしれない。本セミナーでは、多面的なアセスメントや、心理療法以外の臨床での精神分析との接点 について講義を行う。		
参考文献	Rustin, M. (編), Bradley, J. (編), 鈴木誠 (翻訳), 鶴飼奈津子 (翻訳)(2015)ワーク・ディスカッション—心理療法の届かぬ過酷な現 場で生き残る方法とその実践 岩崎学術出版社 Obholzer, A. (編), Vega Zagier, R. (編), 武井麻子 (翻訳), 榊恵子 (翻訳)(2014)組織のストレスとコンサルテーション：対人援助 サービスと職場の無意識 金剛出版	
ご所属	帝京大学	

みんなの協力で、子どもたちが心のケアを受けられる社会へ。



認定NPO法人 子どもの心理療法支援会 事務局
e-mail:info@sacp.jp URL:http://sacp.jp
〒604-8187 京都市中京区東洞院通御池下ル笹屋町444初音館302
FAX:075-600-3238